

第2回 横浜市保土ヶ谷区地区センター 指定管理者選定委員会 会議録	
開催日時	令和8年8月18日（火） 9時00分～17時15分
開催場所	保土ヶ谷区役所 地下会議室
出席者	伊藤委員長、新田委員、樋口委員、堀委員、矢岳委員 （計5名）
欠席者	無し
開催形態	公開（傍聴者0名） ※議題3以降 非公開
議 題	1 選定委員会の進め方等について 2 応募団体によるプレゼンテーション、質疑応答 （1団体につき約30分で実施） 3 意見交換、評価シート記入 4 指定候補者の決定 ※2から4については、施設ごとに審議
議 事	1 選定委員会の進め方等について 事務局から、選定委員会の進め方、応募結果、評価・選定方法、権太坂コミュニティハウスの応募団体における他地方自治体での指定管理者の指定取消処分等について説明。 主な質疑応答の内容は以下のとおり。 ----- 委 員：応募団体が選定基準に満たなかった場合、再公募になるのか。 事務局：そのとおり。 委 員：他地方自治体の指定管理は1年残しての指定取消になるようだが、その後、指定管理者を募集するのか。 事務局：新たに5年間の指定管理者を公募し指定する形になる。 ----- <u>＜権太坂コミュニティハウス／労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団＞</u> 2 応募団体によるプレゼンテーション（約15分）、質疑応答（約15分） 主な質疑応答の内容は以下のとおり ----- 委 員：若年層や子育て世代をどのように施設運営へ巻き込んでいく考えか。 応募団体：「このまちにずっと暮らしたいプロジェクト」などを通じて、親子で参加できるイベントやボードゲーム交流会を実施している。また、絵本の読み聞かせや韓国語で遊ぶサークルなどを通じて、親子の交流の場づくりを進めていきたい。 委 員：他都市施設で発生した着服事案等をどのように受け止め、再発防止に取り組むのか。 応募団体：組織としてコンプライアンス研修や会計チェック体制を実施していた

ものの、それを徹底できず、結果的に不正を防げなかったことを重く受け止めている。社内でのコミュニケーション不足もあったと考える。再発防止策として、全施設でセルフチェック、研修の再実施、現金監査、定期的な会計確認を行っていく。

委員：決算書に計上されている「特別損失」は何か。

応募団体：過去に発生した不適切事案に関連する損害賠償金や和解金等を計上したものである。

委員：地域防災に関し、学校や地域との具体的な連携状況はどうなっているか。

応募団体：小中学校との連携や学校運営協議会への参加、地域自治会との情報交換を行っている。また、防災に関する地域会議にも参加している。

委員：図書のデジタル化とは具体的にどのような内容か。

応募団体：利用者カードによる貸出管理システムを導入している。蔵書や貸出状況がデータ管理されており、従来の手書き管理から利便性が向上している。

委員：イベントをいろいろと開催しており評価できるが、参加人数と周知方法について伺いたい。

応募団体：年間79回程度の自主事業を実施し、延べ約2,300人が参加している。周知は館内掲示、広報紙、自治会回覧、ホームページ等で行っている。

3 意見交換、評価シート記入

- (1) 応募団体の財務状況について、矢岳委員より説明。応募団体は売上規模や資産規模が大きく、財務基盤は安定しているとの評価があった。一方で、損害賠償等に伴う特別損失が継続的に計上されていることから、コンプライアンスやリスク管理への継続的な取組が必要との意見が示された。
- (2) 事務局より、応募団体が応募資格を有すること及び暴力団経営支配法人等に該当しないことについて報告。
- (3) 事務局より、現指定管理者の管理運営状況について説明。
- (4) 提案内容について委員による意見交換を実施。

<主な意見>

- ・地域に密着した運営が行われている。
- ・利用者ニーズを踏まえた事業展開が評価できる。
- ・若年層や子育て世代を対象とした取組を評価する。
- ・地域団体との連携状況がやや見えにくかった。
- ・防災面での地域との連携強化に期待する。
- ・図書サービスのデジタル化について、更なる利便性向上を期待する。
- ・今回、不祥事は発生したが、今後の再発防止策などきちんと整理されていると感じた。

4 指定候補者の決定

各委員の評価点を集計した結果、875 点満点中 687 点となり、最低基準点（450 点）も満たしているため、労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団を指定候補者として決定した。

＜桜ヶ丘コミュニティハウス／一般社団法人保土ヶ谷区区民利用施設協会＞

2 応募団体によるプレゼンテーション（約 15 分）、質疑応答（約 15 分） 主な質疑応答の内容は以下のとおり

委 員：職員向けの防災訓練はどの程度実施しているか。

応募団体：年 2 回実施しており、消防署と連携した訓練や AED 操作、救急対応訓練などを行っている。

委 員：高齢者と子どもの世代間交流はどのように進めているか。

応募団体：高齢者向けに毎月実施している麻雀教室のほか、小学校の施設見学を受け入れている。施設見学では、館内で活動するサークルを子どもたちに見学してもらい、参加者同士で自然に会話が生まれる機会を作っている。こうした取組を通じて、高齢者と子どもが交流できる場づくりを進めている。

委 員：若年層や子育て世代へ情報を届けるための工夫はあるか。

応募団体：自治会回覧、マンション管理組合への配布、ホームページ等を活用して情報発信を行っている。

委 員：学校や地域団体との連携状況について伺いたい。

応募団体：桜台小学校、岩崎中学校、自治会、福祉関係団体等と定期的な情報交換を行い、運営委員会にも参加いただいている。

委 員：運営委員会の構成について伺いたい。

応募団体：自治会長、マンション管理組合代表、学校関係者、福祉関係者、地域住民など約 10 名で構成している。

委 員：連合町内会との連携についてどのように考えているのか。

応募団体：現在は地区の自治会長等に運営委員会に参加いただいているが、連合町内会との連携についても必要性を踏まえながら検討していきたい。

3 意見交換、評価シート記入

- (1) 応募団体の財務状況について、矢岳委員より説明。応募団体は複数の区民利用施設を運営しており、経営規模や資産状況から財務基盤は安定しているとの評価が示された。一方で、近年は収支差額がマイナスとなっている点は留意が必要であるが、施設運営の継続に支障を及ぼす状況ではないとの見解が示された。

	(2) 事務局より、応募団体が応募資格を有すること及び暴力団経営支配法人等に該当しないことについて報告。 (3) 事務局より、現指定管理者の管理運営状況について説明。 (4) 提案内容について委員による意見交換を実施。 ＜主な意見＞ ・これまでの運営に確かな実績があり、地域や学校と連携した運営が行われている。 ・高齢者と子どもの交流機会を創出する取組が評価できる。 ・利用者ニーズを踏まえた事業展開が行われている。 ・若年層や子育て世代への情報発信のさらなる充実を期待する。 ・地域人材の育成や住民参加の取組がやや見えにくかった。 ・地域関係者との連携・参画について、さらなる充実を期待する。 4 指定候補者の決定 各委員の評価点を集計した結果、875 点満点中 711 点となり、最低基準点（450 点）も満たしているため、<u>一般社団法人保土ケ谷区区民利用施設協会</u>を指定候補者として決定した。 <u>＜ほどがや地区センター／一般社団法人保土ケ谷区区民利用施設協会＞</u> 2 応募団体によるプレゼンテーション（約 15 分）、質疑応答（約 15 分） 主な質疑応答の内容は以下のとおり 委員：プレイルーム改修後の利用状況について伺いたい。 応募団体：固定テーブルや椅子を撤去して遊ぶスペースを拡張した。子育て相談事業や保育園帰りの親子などに利用されており、多くの利用がある。 委員：外国籍住民に対してどのような取組を行っているか。 応募団体：体育館の個人利用では中国やミャンマーなど外国籍の方の利用がある。日本語学習サークル等の情報提供を行うなど、利用しやすい環境づくりに努めている。 委員：男女共同参画推進について、具体的な取組は何か。 応募団体：性別による固定的な役割意識にとらわれず、事業企画や施設運営を行うことを意識して取り組んでいる。 委員：宝塚メイク講座とはどのような事業か。 応募団体：保土ケ谷区ゆかりの講師の協力を得て実施した事業であり、宝塚メイクを体験できる内容として参加者から好評を得ている。 委員：クールスポットとして施設開放することで、運営上の支障はないか。 応募団体：現在のところ大きな支障は生じていない。利用者の増加など状況に応じて空き部屋を活用するなど柔軟に対応していきたい。
--	--

委員：地域イベントとの連携状況は。
応募団体：近隣で開催される盆踊りなどの地域行事の際には、来場者へのトイレ提供など施設面で協力している。

委員：サークル活動の情報発信について、どのように取り組んでいるか。
応募団体：会員募集を行っているサークルについてはホームページ等で紹介しており、今後も情報発信の充実に取り組んでいきたい。

3 意見交換、評価シート記入

- (1) 応募団体の財務状況について、矢岳委員より説明。応募団体は複数の区民利用施設を運営しており、経営規模や資産状況から財務基盤は安定しているとの評価が示された。一方で、近年は収支差額がマイナスとなっている点は留意が必要であるが、施設運営の継続に支障を及ぼす状況ではないとの見解が示された。
- (2) 事務局より、応募団体が応募資格を有すること及び暴力団経営支配法人等に該当しないことについて報告。
- (3) 事務局より、現指定管理者の管理運営状況について説明。
- (4) 提案内容について委員による意見交換を実施。

<主な意見>

- ・組織としてしっかり安定しており、地域の中核施設として安定した運営が行われている。
- ・利用者ニーズを踏まえた事業展開やサービス向上の取組が評価できる。
- ・子育て世代や高齢者など幅広い世代を対象とした取組が行われている。
- ・地域行事や近隣商店街など関係団体との連携をさらに広げることを期待する。
- ・サークル活動や施設の魅力について、より積極的な情報発信を期待する。

4 指定候補者の決定

各委員の評価点を集計した結果、925 点満点中 786 点となり、最低基準点（480 点）も満たしているため、一般社団法人保土ヶ谷区区民利用施設協会を指定候補者として決定した。

<西谷地区センター／一般社団法人保土ヶ谷区区民利用施設協会>

2 応募団体によるプレゼンテーション（約 15 分）、質疑応答（約 15 分）

主な質疑応答の内容は以下のとおり

委員：西谷地区センター独自の取組はどのような経緯で生まれたのか。
応募団体：「まちのアーティスト」の取組を以前から実施しており、それが人と人とのつながりを生み出してきた。さらに広げていく中で今回の提案につながった。

委員：子育て世代や働く世代が増える中で、今後の課題と対応は。

	応募団体：働く世代の参加が課題である。時間帯や曜日などのニーズに合わせて事業内容を工夫し、多様な参加機会を設けていきたい。 委員：ホームページや SNS を活用した情報発信について、今後の方向性は。 応募団体：来館につなげることを目的に、紙媒体とホームページの双方で情報発信を行っている。今後は LINE など SNS の活用も強化していきたい。 委員：西谷まつりとの関わりはどのようになっているか。 応募団体：現在は会場や部屋の提供や準備の手伝いをのみであるが、今後はより積極的な参加も検討したい。 委員：インターネット予約システムや SNS 活用は既に実施しているのか。 応募団体：既にインターネット予約システムを導入しており、利用者は 24 時間予約や空き状況の確認ができる。SNS も活用している。 委員：図書について、貸出管理のデジタル化は行っているか。 応募団体：蔵書データは管理しているが、貸出手続きのデジタル化までは実施していない。 委員：印刷機利用の支援についてどのように取り組んでいるか。 応募団体：利用者が安心して利用できるよう、職員が積極的に操作支援を行っている。 委員：利用者ニーズへの対応の優先順位はどのように決めているか。 応募団体：アンケート結果や利用者要望を踏まえつつ、安全確保のための修繕を優先しながら対応している。 委員：DX 推進の取組として ICT 機器の活用や情報発信を行っているとのことだが、利用状況や効果などの実績は把握しているか。 応募団体：ICT 機器等は既に活用しているが、利用実績や効果についての分析は十分に行えていない。今後、利用状況の把握や検証を進めていきたい。 3 意見交換、評価シート記入 (1) 応募団体の財務状況について、矢岳委員より説明。応募団体は複数の区民利用施設を運営しており、経営規模や資産状況から財務基盤は安定しているとの評価が示された。一方で、近年は収支差額がマイナスとなっている点は留意が必要であるが、施設運営の継続に支障を及ぼす状況ではないとの見解が示された。 (2) 事務局より、応募団体が応募資格を有すること及び暴力団経営支配法人等に該当しないことについて報告。 (3) 事務局より、現指定管理者の管理運営状況について説明。 (4) 提案内容について委員による意見交換を実施。 <主な意見>
--	--

- ・地域の特性を踏まえた独自の取組や地域コーディネート機能が評価できる。
- ・「まちのアーティスト」など、地域人材を活かした取組が特色として評価。
- ・利用者実績が増加しており、日頃の取組の成果が表れている。
- ・西谷まつりなど地域イベントとの連携について、さらに積極的な関わりを期待する。
- ・地域アーティストの活動発表の場づくりや情報発信の充実を期待する。
- ・地域住民やサークル活動を通じた地域の担い手育成につながる取組を評価する。

4 指定候補者の決定

各委員の評価点を集計した結果、925点満点中799点となり、最低基準点(480点)も満たしているため、一般社団法人保土ケ谷区区民利用施設協会を指定候補者として決定した。

＜今井地区センター／一般社団法人保土ケ谷区区民利用施設協会＞

2 応募団体によるプレゼンテーション(約15分)、質疑応答(約15分)

主な質疑応答の内容は以下のとおり

委員：サークル活動の支援を強化することだが、現在どの程度のサークルを支援しているのか。

応募団体：サークルの活動状況を把握しながら、体験会の開催や会員募集の支援などを行っている。

委員：ケアプラザとの複合施設であることの効果と課題について伺いたい。

応募団体：ケアプラザとの共催事業やセンター祭りを通じて、施設を利用したことのない地域住民にも来館していただく機会となりケアプラザを知っていただくきっかけになっている。一方で、ケアプラザ閉館後の施設管理や建物全体への配慮が必要となる点が課題である。

委員：地域の図書館を掲げているが、蔵書のデータ管理はどのように行っているか。

応募団体：約12,000冊の蔵書を端末で管理している。ただし、貸出・返却業務のシステム化までは実施していない。

委員：図書の貸出管理や蔵書検索について、さらにデジタル化を進める考えはあるか。

応募団体：蔵書管理は行っているが、利用者自身による検索や貸出システムの導入には至っていない。今後の改善課題として検討したい。

委員：環状二号線の反対側など、来館しづらい地域の高齢者に対してどのような工夫をしているか。

応募団体：センター祭りや各種イベントへの参加を呼び掛けることで来館のきっかけを作っている。また、連合自治会等と連携し、できるだけ参加し

やすい環境づくりに努めている。

委員：世代ごとに異なるニーズや地域情報はどのように収集しているか。

応募団体：自治会や地域活動の会議に参加して地域の情報を収集しているほか、自主事業の参加者や子育て世代との対話を通じてニーズ把握に努めている。また、小学生の利用者には居住地域などを聞き取り、どの地域から来館しているかを把握しながら、事業企画や施設運営に反映している。

委員：小学生へのバスケットボール等の貸出について、紛失や破損への対策はどのように行っているか。

応募団体：貸出時に利用者へ声掛けを行い、返却時には職員が確認している。日頃から利用者とのコミュニケーションを大切に、適切な利用を呼び掛けている。

委員：親子向けの読み聞かせ事業など、図書を活用した取組は行っているか。

応募団体：現在は英語を使った親子向け事業などを実施しているが、読み聞かせ事業は行っていない。今後の取組として参考にしたい。

3 意見交換、評価シート記入

- (1) 応募団体の財務状況について、矢岳委員より説明。応募団体は複数の区民利用施設を運営しており、経営規模や資産状況から財務基盤は安定しているとの評価が示された。一方で、近年は収支差額がマイナスとなっている点は留意が必要であるが、施設運営の継続に支障を及ぼす状況ではないとの見解が示された。
- (2) 事務局より、応募団体が応募資格を有すること及び暴力団経営支配法人等に該当しないことについて報告。
- (3) 事務局より、現指定管理者の管理運営状況について説明。
- (4) 提案内容について委員による意見交換を実施。

<主な意見>

- ・地域課題や利用者ニーズを踏まえた提案内容が、分かりやすく整理されている。
- ・ケアプラザとの連携を生かした事業展開や地域交流の取組が評価できる。一方でケアプラザとの合築施設であることで課題もあるので、上手に連携をとれるとよい。
- ・子育て支援、小学生の居場所づくり、図書機能の充実など、多世代を対象とした取組が行われている。
- ・センター祭りを中心とした地域交流の取組が充実している。
- ・地域情報の収集や地域団体との連携を継続し、地域コミュニティづくりをさらに進めることを期待する。
- ・サークル活動の支援や地域の担い手育成につながる取組を評価する。

4 指定候補者の決定

各委員の評価点を集計した結果、925 点満点中 790 点となり、最低基準点 (480 点) も満たしているため、一般社団法人保土ケ谷区区民利用施設協会を指定候補者として決定した。

<初音が丘地区センター／一般社団法人保土ケ谷区区民利用施設協会>

2 応募団体によるプレゼンテーション (約 15 分)、質疑応答 (約 15 分)

主な質疑応答の内容は以下のとおり

委員：子育て支援から子育てサークルの育成につなげることはできているのか。また、プレイルームを 21 時まで開放している理由は何か。

応募団体：参加者の一部が地域の子育てサークルで活動するなどの成果が見られるが、サークル化まで発展する事例は多くなく課題である。また、プレイルームは利用者からの要望を受けて開放時間を延長したもの。職員の多くが子育て経験者であり、保護者に寄り添った相談や見守りができる場として運営している。

委員：スリッパ卓球とはどのような事業か。

応募団体：卓球ラケットの代わりにスリッパを使用するニュースポーツである。ボールも通常より大きく初心者でも楽しみやすいことから、小学生から高齢者まで交流できる事業として実施している。

委員：レコードカフェやスリッパ卓球はどのような経緯で始まったのか。

応募団体：レコードカフェは利用者やボランティアからの提案をきっかけに始まった。スリッパ卓球は地域交流研修で知ったことがきっかけで導入した。

委員：防災・防犯に関する具体的な取組について伺いたい。

応募団体：職員全員が AED や心肺蘇生訓練、消火訓練を毎年受講している。また、防災拠点会議への参加や子どもの見守り、防犯カメラの設置等を行っている。

委員：図書コーナーについて、蔵書検索やデータ管理はどのように行っているか。

応募団体：蔵書はデータ管理されており、職員が検索して案内することができる。また、新着図書は地区センターだよりや館内展示で周知している。

委員：子育て支援に力を入れているが、妊娠期（マタニティ期）からつながる取組についても検討してほしい。

応募団体：貴重な意見として受け止め、今後の事業展開の参考としたい。

委員：サークル数や活動状況はどうなっているか。

応募団体：登録サークル数は約 1,200 である。コロナ禍以降は各サークルの会員

数が減少しており、現在は10人程度の小規模な活動も増えている。また、感染への配慮から少人数で活動する傾向が見られる。

3 意見交換、評価シート記入

- (1) 応募団体の財務状況について、矢岳委員より説明。応募団体は複数の区民利用施設を運営しており、経営規模や資産状況から財務基盤は安定しているとの評価が示された。一方で、近年は収支差額がマイナスとなっている点は留意が必要であるが、施設運営の継続に支障を及ぼす状況ではないとの見解が示された。
- (2) 事務局より、応募団体が応募資格を有すること及び暴力団経営支配法人等に該当しないことについて報告。
- (3) 事務局より、現指定管理者の管理運営状況について説明。
- (4) 提案内容について委員による意見交換を実施。

<主な意見>

- ・子育て支援から高齢者支援まで切れ目のない事業展開が行われている。
- ・地域に根差した運営と利用者に寄り添った対応が評価できる。
- ・スリッパ卓球やレコードカフェなど独自性のある事業が評価できる。
- ・防災、防犯の取組について、プレゼンテーションでもう少し具体的な説明があると良かった。
- ・図書機能や読書活動のさらなる充実を期待する。
- ・サークル活動を地域の担い手育成につなげる取組を評価する。
- ・妊娠期から子育て期までを見据えた支援の充実を期待する。

<初音が丘地区センター／一般社団法人YTコミュニティデザイン>

2 応募団体によるプレゼンテーション（約15分）、質疑応答（約15分）

主な質疑応答の内容は以下のとおり

委員：提案内容を具体的に説明してほしい。

応募団体：これまでの生涯学習の場としての機能に加え、多様な団体や個人がつながり、新たな地域活動や地域の担い手が生まれる拠点づくりを重視している。

委員：利用者負担のない事業を提案しているが、継続性はどのように確保するのか。

応募団体：地域には報酬がなくても活動したい人もいる一方、継続には交通費などの必要経費も重要である。活動の趣旨に応じて柔軟に支援しながら事業を継続していきたい。

委員：閉館時の警備体制はどのように考えているか。

応募団体：一般的な公共施設と同様に機械警備を基本とし、安全管理に対応する考えである。

委員：設立間もない法人だが、資金の調達など面はどのように考えているか。
応募団体：資本金は 100 万円であるが、現在も実施している事業があり、当面は役員自らが運営に携わることで人件費を抑えながら活動を進めていく考えである。

委員：初音が丘地区センターを運営したいと考えた理由は何か。
応募団体：これまでの市民活動支援の経験を生かし、人や団体がつながり、新たな地域活動が生まれる拠点づくりに取り組みたいと考えたためである。

委員：サポート会員とはどのような位置付けか。
応募団体：団体の理念や活動に賛同いただいた方々であり、将来的に事業や地域活動を進める際の相談相手や協力者として想定している。

委員：大学生をどのように施設運営へ参画させる考えか。
応募団体：大学生のアルバイトや企画参加を通じて施設運営に関わる機会を設けたい。また、大学生が持つアイデアや企画力を地域活動へ生かしたいと考えている。

委員：感染症対応と災害対応が同列に記載されているが、内容を区別して整理すべきではないか。
応募団体：指摘を踏まえ、感染症対応と災害対応は分けて整理し、より具体的な対応方針を示したい。

委員：地域の歴史資源を生かした事業についてどのように考えているか。
応募団体：保土ヶ谷宿など地域の歴史資源に関心を持つ人は多い。地域の歴史を学ぶ講座や展示、学校との連携などを通じて地域資源を活用したい。

3 意見交換、評価シート記入

- (1) 応募団体の財務状況について、矢岳委員より説明。応募団体は設立間もない法人であり、財務実績が十分に確認できないとの見解が示された。また、資本金 100 万円のみで大規模施設を運営することについては不安が残り、事業計画の実現性や継続性を慎重に判断する必要があると意見があった。
- (2) 事務局より、応募団体が応募資格を有すること及び暴力団経営支配法人等に該当しないことについて報告。
- (3) 提案内容について委員による意見交換を実施。

<主な意見>

- ・地域活動支援の経験を生かした新しい視点の提案が評価できる。
- ・人や団体をつなぐ地域活動拠点としての考え方に特色がある。
- ・大学生の参画や地域主体の活動創出に向けた提案は興味深い。
- ・地域課題の解決や担い手育成につながる取組を評価する。
- ・設立間もない法人であり、運営体制や財務面に不安を感じる。
- ・防災体制や危機管理に関する説明が具体性に欠けていた。

	・ 提案内容は意欲的であるが、実現性や継続性を慎重に見極める必要がある。 4 指定候補者の決定 各委員の評価点を集計した結果、一般社団法人保土ヶ谷区区民利用施設協会は 925 点満点中 779 点、一般社団法人 YT コミュニティデザインは 925 点満点中 691 点となり、最低基準点（480 点）も満たしているため、<u>一般社団法人保土ヶ谷区区民利用施設協会を指定候補者、一般社団法人 YT コミュニティデザインを次点候補者として決定した。</u>
配布資料	1 選定委員会の進め方等について 2 横浜市保土ヶ谷区地区センター指定管理者選定委員会名簿 3 席次表 4 選定委員会 当日スケジュール 5 現指定管理者運営実績 6 現指定管理者第三者評価シート（総括抜粋） 7 現指定管理者運営実績評価シート 8 応募書類 9 評価シート 10 確認書（応募団体との利害関係について） 11 別紙（権太坂コミュニティハウス応募団体について）